



平成 28 年 3 月 22 日

各 位

会 社 名 日本アジア投資株式会社
代表者の役職名 代表取締役 細 窪 政
(コード番号 8518 東証一部)
問 い 合 せ 先 常務取締役 下村 哲朗
T E L 0 3 (3 2 5 9) 8 5 1 8

営業外収益及び特別利益の計上に関するお知らせ

当社は、この度、営業外収益として受取配当金683百万円及び特別利益として投資有価証券償還益70百万円を計上することとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 事実の概要

当社が投資するファンドのうち投資有価証券に該当するものにおいて、当該ファンドの投資先企業の一部売却が実現したため、当社は当該ファンドから受取配当金 683 百万円を受領いたしました。また、受領の際に為替の含み益が実現し、投資有価証券償還益 70 百万円が発生いたしました。

2. 今後の見通し

上記受取配当金は、平成 28 年 3 月期連結会計年度において、営業外収益に計上される予定であります。また、上記投資有価証券償還益は、平成 28 年 3 月期連結会計年度において、特別利益に計上される予定であります。

業績予想につきましては、当社グループが展開する投資事業全般はその事業特性上株式市場等の変動要因による影響が極めて大きく、加えて昨今の変動の激しい環境下においては合理的な業績予想が困難なため、当社は業績予想を行っておりません。

しかしながら、投資家及び株主の皆さまの利便に資するべく、業績予想に代えて、「従来連結基準（注）による見込値」を参考情報として開示することと致しました。

なお、本資料に掲載されている将来に関する記述は、当社グループが現時点において入手可能な情報から得られた判断により、次頁の前提条件に基づいておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。よって、実際の数値は様々な要因により、記述されている内容とは大きく異なる可能性があります。

（参考情報）従来連結基準（注）による実績値、及び、見込値

従来連結基準（注）による 実績値、及び、見込値	営業収益 （百万円）	営業利益 （百万円）	経常利益 （百万円）	親会社株主に 帰属する 当期純利益 （百万円）	1株当たり 当期純利益 （円）
平成 27 年 3 月期連結会計年度 （前期）実績値	4,532	△550	△610	△850	△7.15
平成 28 年 3 月期連結会計年度 見込値	3,585	△186	286	301	21.26

(参考情報) 従来連結基準 (注) による見込値の四半期別内訳

従来連結基準 (注) による 見込値の四半期別内訳	営業収益 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 四半期純利益 (百万円)
平成 28 年 3 月期第 3 四半期 連結累計期間 実績値 (平成 27 年 4 月 1 日 ～平成 27 年 12 月 31 日)	2,380	△291	△465	△514
平成 28 年 3 月期第 4 四半期 連結会計期間 見込値 (平成 28 年 1 月 1 日 ～平成 28 年 3 月 31 日)	1,204	106	752	815
平成 28 年 3 月期 連結会計年度 見込値 (平成 27 年 4 月 1 日 ～平成 28 年 3 月 31 日)	3,585	△186	286	301

(注) 従来連結基準

当社グループでは、平成 19 年 3 月期より、「投資事業組合に対する支配力基準及び影響力基準の適用に関する実務上の取扱い」(企業会計基準委員会 平成 18 年 9 月 8 日 実務対応報告第 20 号)を適用し、当社グループで運営している投資事業組合等の一部を連結の範囲に加えて連結財務諸表等を作成しております。

しかしながら、投資家及び株主の皆さまに、当社グループの経営成績及び財務状況を正しくご認識頂くためには、従来からの会計基準による財務諸表等の開示も必要と考えております。以上のことから、従来からの会計基準による連結財務諸表等を「従来連結基準」として継続的に開示しております。

このように、従来連結基準 (注) による平成 28 年 3 月期連結会計年度 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日) の見込値は、親会社株主に帰属する当期純利益が 301 百万円の黒字化を達成する見込みですが、その前提条件は下記のとおりです。

① 営業収益の状況

投資先企業の M&A 等による売却や既上場株式の市場売却などにより営業投資有価証券売却高は 2,552 百万円を見込んでいます。ファンド運営報酬については、平成 28 年 3 月期第 4 四半期に 2 ファンド 52 億円を新規設立したものの、既存ファンドの清算に伴い、平成 28 年 3 月期連結会計年度末のファンド運用残高は前連結会計年度末から減少する見込であり、これに伴い、管理報酬は 413 百万円を見込んでいます。一方で、成功報酬については、当社が成功報酬を受領することのできるファンドにおける売却益が増加したため、288 百万円を見込んでいます。これらの影響を含めた連結営業収益については 3,585 百万円を見込んでいます。

② 営業利益の状況

営業原価については、投資先企業の M&A 等による売却や既上場株式の市場売却などによる営業投資有価証券売却原価の計上を見込んでいます。一方で、評価損・引当繰入額については、前連結会計年度は株式会社白元に対し評価損 839 百万円を計上したため評価損の金額が多額となりましたが、平成 28 年 3 月期連結会計年度は特殊要因がなく、近く満期を迎えるファンドの投資先に対して第 3 四半期連結累計期間までに一定額を計上したものの前連結会計年度から減少する見込みです。

また、販売費及び一般管理費については、第 2 四半期において特殊要因として当社が出資す

るファンドから当該ファンドを運営する会社に向けて支払った支払成功報酬 209 百万円が組合持分経費として計上されたため、前連結会計年度から増加する見込みです。これらの影響を含め、連結営業損失は 186 百万円を見込んでいます。

③ 経常利益の状況

営業外損益については、上記のとおり受取配当金 683 百万円が計上されるため、平成 28 年 3 月期連結会計年度の営業外収益の金額は前連結会計年度から大幅に増加する見込みです。営業外費用については、現時点で平成 28 年 3 月期第 4 四半期における特殊要因は見込んでいません。その結果、連結経常利益については 286 百万円を見込んでいます。

④ 当期純利益の状況

特別利益については、平成 28 年 3 月期第 3 四半期連結累計期間において計上したものの他に、上記のとおり投資有価証券償還益 70 百万円が計上されるため、平成 28 年 3 月期連結会計年度の特別利益の金額は前連結会計年度から増加する見込みです。

特別損失については、平成 28 年 3 月期第 3 四半期連結累計期間において計上したものの他に、現時点で平成 28 年 3 月期第 4 四半期における多額の計上は見込んでいません。その結果、親会社株主に帰属する当期純利益については 301 百万円を見込んでいます。

以 上